歌うことは私のすべて これからも歌い続けたい

第29回日本大衆音楽祭・全国大会
内閣総理大臣賞受賞

宮田宏美（みやたひろみ）さん

小林人 こばやしびと Vol.33

念願のトロフィーを掲げる宮田さん。「大きくて重いトロフィーで驚きました」と話す

「頭の中が真っ白になった。家族や友人に、おめでとうと言われて初めて実感が湧いた」

宮田宏美さんは、9月23日、東京都新宿にある日本青年館で開催された第29回日本大衆音楽祭・全国大会で、最高賞である内閣総理大臣賞の栄冠を手にした。

「昨年も、この大会には出場しましたが、手ぶらで帰ってきました。今年はリベンジを誓い、力いっぱい歌いました」と今大会への思いを語る。

宮田さんの声質は、声を張って勢いがある歌い方があっている。そのため、昨年から特に、高音域で出せるように練習を重ねてきた。それが、この結果につながった。

「ただ、大会直前は緊張しました。エントリーナンバーの55番に、語呂を合わせてゴーゴーとテンションを上げて舞台に立ちました」と笑いながら話す。

宮田さんが歌に興味を持ち始めたのは、3歳のころ。

「私が歌うと、父が喜んでくれるので、いつも歌っていました」と話す。

高校卒業後19才のときに、歌手になりたいという思いから、上京。25歳まで、毎日歌に没頭する日々だった。昼は美容師をしながら、夜はクラブハウスなどのイベントで歌う。多忙な生活で、3日で2時間しか寝ていないこともあった。それでも、大好きな歌を歌えているので、辛いと感じたことはなかった。「むしろ毎日が楽しかったです」と当時をふ振り返る。

「ただ、一つ心残りなことは、レッスンしてくれた先生の教えを全く聴かなかったことです。ただやみくもに自分の歌いたいように歌っていました。耳を傾けていたら歌手になる夢が叶っていたかもしれないですね」と少し残念そう。

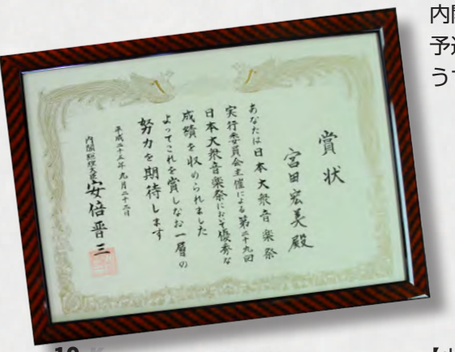
そして、夢を諦め10年前に小林に帰郷。歌うことは好きだったが、大会への出場などには興味がなかった。そんなとき、2007年に市文化会館で開催された、NHKのど自慢大会に友達に勧められ出場。見事チャンピオンの座を勝ち取った。「歌で競い合うことの楽しさを知りました。それから、カラオケ大会などに出場するようになりました」。

宮田さんは、現在、小林郵便局に勤務し配達員として多忙な毎日を過ごしている。そのため練習は、車の中。「人が少ない道になると、いつも発声練習をしています」と笑う。

「あと、月に1度行く息子とのカラオケが練習です。」と宮田さん。

息子の光輝（みつき）くんは宮田さんの歌について「もちろん、百点満点。透き通るようなきれいな歌声が大好きです」と鼻を高くしていた。

「歌うことは私のすべてです。日本一というプレッシャーに負けず、努力してもっと上手くなりたい。そして、歌で小林を元気にできれば」と宮田さんの向上心は尽きない。



賞状

宮田宏美殿

あなたは日本大衆音楽祭実行委員会主催による第二十九回日本大衆音楽祭において優秀な成績を収められましたよってこれを賞しなお一層の努力を期待します

内閣総理大臣 安倍晋三

内閣総理大臣賞は、各都道府県の予選を勝ち抜いた精鋭２３８人のうちたった一人だけが受賞できる

郵便局での仕事の様子。普段は、市全域に郵便物をお届けしています

【小林人】のコーナーでは、小林市在住や出身のキラリと光る人をご紹介します。